

大歳六車神社の大杉診断結果の報告

調査者 鳥越 茂・宮田和男・久世智英子・竹国

1. はじめに3の大杉は県の天然記念物に指定されており、地元自治会では旧来より大切に守られてきた。この大杉は初めほぼ同じ大きさの幹が2本並んで立っていたが、平成40年代の台風で西側の幹が裂けて崩れ落ち裂け目が空洞になった。そのままになっていたが、腐れが入って来たので平成12年に兵庫みどり公社により治療が行われている。その後14年が経過したので、大杉に異常がないか実態を調査し、今後の対策を検討したので報告する。

2. 調査方法

- 1) 調査日：平成26年7月30日
- 2) 場 所：神河町大畑 大歳六車神社地内
- 3) 方 法：参加者5名が平成12年の報告書と今回の調査結果を比較して診断書を作成した。

3. 診断結果

平成12年工事完了後と今回の調査結果は写真の通りで、前者は写真-1、後者は写真①のように工事の内容と結果が比較できるように並べた。

1) 写真-1、写真①は全景であるが、葉量にそれほどの違いは感じられない。ただ当時の担当者に聞くと当時右側の幹は非常に弱っていたとのことである。現在、左の主幹はほとんど変化が感じられないが、右側の幹は下から見上げると葉が茂り空は見えないほど樹勢がよくなっている。

2) 写真-2、写真②は主幹上部の枝葉の茂り具合を比較したものある。現在、枯れ枝は見られずスギの健康に問題はないように思われる。

3) 写真-3、写真③は不定根形成工事と現在の発達状態を示している。2本の不定根は大きく成長し、樹勢の強化に大いに役立っていると考えられる。水分養分の補給と樹体の重量を支えるという物理的な強度の増進に役立っている。

4) 写真-5、写真⑤は傷口にFRPで蓋をして腐朽の進行を防ぐ作業で、FRPと樹皮のつなぎ目に隙間はなく樹皮がうまく巻き込んでいる。この作業例は多くの場所で見られますが、非常にうまくいっている例である。

5) 写真-6、写真⑥は樹体の揺れと、亀裂を防ぐためのワイヤーとクッションの状態である。ワイヤーがクッションに食い込んでおらず、現在のところ幹が裂けたり倒壊する危険は少ないと思われた。

6) 写真7～9は大杉の主幹から3方向に出て倒壊を防いでいるワイヤーの状況である。写真7, 8はワイヤーを岩に括り付け、写真-9はアンカーを打って止めている。南東のワイ

ヤーは張が強いように感じられるが、他の 2 本は張りに余裕が見られ、一方向にだけ引っ張られていることはないようである。

7) 以上、大杉の樹勢は良く、強度の面でも特に異常は感じられなかった。ただ、このまま成長を続けると、体重が増え続け幹が持ちこたえるかという強度の面が心配である。特に根元に大きな空洞があるだけに、樹体重量の軽減は常に気を付けていなければならない。3～5年に1回は幹の剪定をして樹体を軽くする必要がある。また、ワイヤーの点検も欠かせない。安全は何にも勝る課題である。

大歳六車神社の大杉診断結果(平成26年7月30日)

平成12年作業完成後



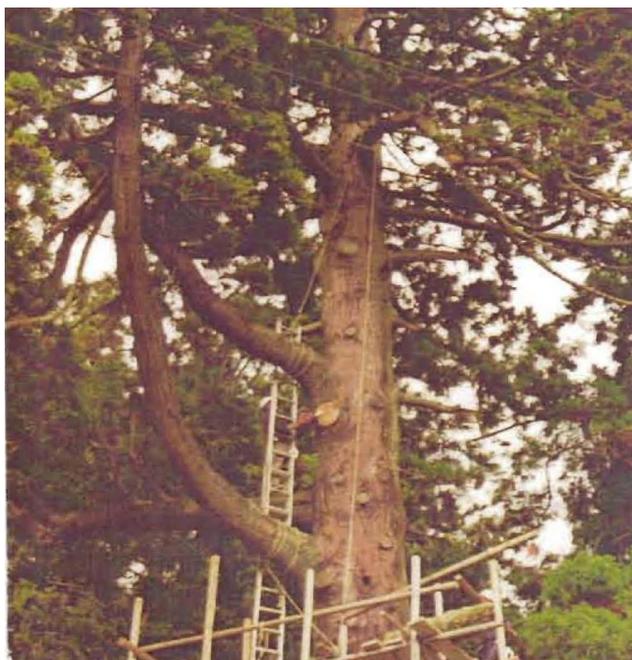
平成26年7月



(写真-1) 工事完了後(全景)



(写真-①) 平成26年現在 (全景)



(写真-2) 工事前枯れ枝



(写真-②) 樹勢は良く枯れ枝が見られない



(写真-3) 主幹部の不定根形成工事



(写真-③) 不定根が大きく成長し樹体を強くしている



(写真-4) 枯れ枝処理とFRP



(写真-④) 樹皮がFRPを巻き込み樹体を保護している。



(写真-5)FRPによる傷口の保護



(写真-⑤)樹皮がFRPを巻き込み、傷口の腐朽を防いでいる



(写真-6)ワイヤー取り付け



(写真-⑥)クッションにワイヤーの食い込みは見られず、裂ける危険性は少ない。



(写真-7)ワイヤー(北西)



(写真-8)ワイヤー(北東)



(写真-9)ワイヤー(南東)